

# スリランカ投資庁 (BOI)

## スリランカ——アジアの驚異

スリランカは、2009年5月から平和を取り戻し、その経済成長性と投資先としての有望性から、アジアの驚異とよばれるようになりました。これはスリランカ政府とスリランカ投資庁 (BOI) の評価ではなく、国際的に知名度の高い新聞、業界紙によるものです。「Economist Intelligence Unit」は、スリランカを「世界の急成長経済トップ10の第8位」にランクしています。ニューヨーク・タイムズ紙は、世界の観光地ランキングで、スリランカ国を「2010年に訪れるべき最高の場所のうちのひとつ」と評しました。

スリランカのインフレ率は、2008年の20%に比べ、2010年は5%以下となりました。数十年に及ぶ内戦での疲弊にもかかわらず、1人当たりの国民所得は2004～09年の間でほぼ倍増しています。こうした成長の実績は、世界的な経済不況のただ中で成し遂げられました。

2010年、スリランカの経済成長率が7%を達成するとHSBCが予測したのも、スリランカ経済が今まさに羽ばたく準備を整えた証といえるでしょう。

こうした成長が持続するには、スリランカは、現在の投資のレベルを上昇させる必要があります。BOIは現在、スリランカの経済強化に大きな影響を及ぼすような重要セクターへの投資誘致を計画しています。まず、観光セクターについて開発と近代化を図ります。美しい海岸線、古代の史跡、国立公園など非常に多様な景観をもつスリランカの観光業は、投資により大きく発展する可能性があります。

BOIの新しい計画では、2016年までにホテルの客室数を現在の1万4000室から3万6000室に増やし、既存ホテルの部屋のグレードを上げることをめざしています。

カルピティヤ、クッチャヴェリ、パッシクダに新しい観光エリアを開発するプランもあります。カルピティヤは特に興味深い場所で、本島沖に位置する小さな島々から構成されるという地域的な特性があり、開発されればユニークなリゾート体験を観光客に提供できる場所です。



観光産業の発展が期待されるスリランカ

次に、BOIで積極的な投資誘致を図っているのが教育と職業能力開発の分野です。スリランカ政府は人的資源の開発育成に重点をおいており、大学設置、知識パーク設立、研修施設整備などの各種プロジェクトが存在します。

他の多くのアジア諸国と同様、スリランカでも情報技術／ビジネス・プロセス・アウトソーシング (BPO) のセクターが成長しています。スリランカには会計士資格保有者が多く、会計業務のほかにも、医療保険業務、コールセンター業務でのサービス・オペレーション拠点が設置されています。

農業への投資も求められています。スリランカには広い未耕作地があり、また、食糧の輸入依存度の低減と食料安全保障の向上を図るため、BOIは農業と食品加工、特に酪農畜産分野でのプロジェクトを奨励しています。

経済発展は質の高いインフラに由来するものです。都市インフラ、道路や高速道路、通信、交通システム、発電所の開発のための投資プロジェクト誘致がBOIの5番目の重点項目です。

スリランカでは現在コロンボ港のキャパシティを4倍にする拡張整備事業が行われています。島の南端では、ハンバントータ港湾事業も始まりつつあります。これらの新しい港湾の建設は、港湾関連事業への投資に大きな機会をもたらします。その他の港湾インフラで開発が予定されているのは、東部州のオルヴィル、南部のゴール、北端ジャフナ半島のカンケサンツライの各港湾、そして北東トリンコマリ一港にある天然の大水深埠頭の改修整備などです。

スリランカは、世界の投資家に多くの機会を提供

しており、なかでも日本からの投資が積極的に求められています。日本との関係は非常に親密で、BOIは在スリランカ日系企業と常に対話を行い、友好的な関係を築きつつ、ともに問題解決を図っています。

スリランカに投資している日本企業は、現在約60社あります。最も古い投資企業は、1972年進出のノリタケ社です。ほかにもNTT、三井グループ、川鉄商事、YKKグループなどの日本の大手有名企業が、スリランカで事業を営んでいます。日本からの投資額は計1億6200万ドルに達し、1万2000人のスリランカ人が雇用されています。

お問い合わせは、Kumudini Ratnaweera（スリランカ投資庁（BOI）、E-mail：kumudinir@boi.lk、Webサイト：www.investsrilanka.com）まで。

